【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成24年1月26日(2012.1.26)

【公表番号】特表2002-508334(P2002-508334A)
【公表日】平成14年3月19日(2002.3.19)
【出願番号】特願2000-538716(P2000-538716)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　39/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/16　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/12　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/29　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　39/00　Ｇ
Ａ６１Ｋ　 9/16
Ａ６１Ｋ　39/12
Ａ６１Ｋ　39/29
Ａ６１Ｐ　31/12
Ａ６１Ｐ　37/04

【誤訳訂正書】
【提出日】平成23年11月16日(2011.11.16)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】特許請求の範囲
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　サブミクロンの水中油型エマルジョン、および
生分解性微粒子に含まれた選択された抗原
を含む、組成物。
【請求項２】　前記微粒子が、ポリ（Ｌ－ラクチド）、ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド）およびポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コ－グリコリド）からなる群から選択される、ポリ（α－ヒドロキシ酸）から形成される、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】　前記微粒子が、ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コ－グリコリド）から形成される、請求項２に記載の組成物。
【請求項４】　前記サブミクロンの水中油型エマルジョンが、４～５％　ｗ／ｖのスクアレン、０．２５～０．５％　ｗ／ｖのＴｗｅｅｎ　８０（登録商標）、および０．５％　ｗ／ｖのＳｐａｎ　８５（登録商標）を含む、請求項１～３のいずれかの項に記載の組成物。
【請求項５】　請求項４に記載の組成物であって、前記サブミクロンの水中油型エマルジョンは、Ｎ－アセチルムラミル－Ｌ－アラニル－Ｄ－イソグルタミニル－Ｌ－アラニン－２－（１’－２’－ジパルミトイル－ｓｎ－グリセロ－３－ヒドロキシホスホリルオキシ）－エチルアミンをさらに含む、組成物。
【請求項６】　前記選択された抗原が、ウイルス性抗原である、請求項１～４のいずれかの項に記載の組成物。
【請求項７】　前記選択された抗原が、ｇｐ１２０である、請求項６に記載の組成物。

【請求項８】　前記選択された抗原が、ｐ２４ｇａｇである、請求項６に記載の組成物。

【請求項９】　前記選択された抗原が、Ｃ型肝炎ウイルスＥ２である、請求項６に記載の組成物。

【請求項１０】　前記選択された抗原が、前記微粒子中に捕捉されている、請求項１～９のいずれかの項に記載の組成物。

【請求項１１】　前記選択された抗原が前記微粒子に吸着されている、請求項１～９のいずれかの項に記載の組成物。

【請求項１２】　組成物であって、

（ａ）４～５％　ｗ／ｖのスクアレン、０．２５～０．５％　ｗ／ｖのＴｗｅｅｎ　８０（登録商標）、および０．５％　ｗ／ｖのＳｐａｎ　８５（登録商標）を含む、サブミクロンの水中油型エマルジョン、および

（ｂ）ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コ－グリコリド）微粒子に含まれた選択された抗原

を含む、組成物。

【請求項１３】　請求項１２に記載の組成物であって、前記サブミクロンの水中油型エマルジョンは、Ｎ－アセチルムラミル－Ｌ－アラニル－Ｄ－イソグルタミニル－Ｌ－アラニン－２－（１’－２’－ジパルミトイル－ｓｎ－グリセロ－３－ヒドロキシホスホリルオキシ－エチルアミンをさらに含む、組成物。

【請求項１４】　前記選択された抗原が、前記微粒子中に捕捉されている、請求項１２に記載の組成物。

【請求項１５】　前記選択された抗原が前記微粒子に吸着されている、請求項１２に記載の組成物。

【請求項１６】　脊椎動物の被験体を免疫するための組成物であって、

（ａ）サブミクロンの水中油型エマルジョン、および

（ｂ）生分解性微粒子に含まれた治療的に有効量の選択された抗原

を含む、組成物。

【請求項１７】　前記微粒子が、ポリ（Ｌ－ラクチド）、ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド）およびポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コ－グリコリド）からなる群から選択される、ポリ（α－ヒドロキシ酸）から形成される、請求項１６に記載の組成物。

【請求項１８】　前記微粒子が、ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コ－グリコリド）から形成される、請求項１７に記載の組成物。

【請求項１９】　前記サブミクロンの水中油型エマルジョンが、４～５％　ｗ／ｖのスクアレン、０．２５～０．５％　ｗ／ｖのＴｗｅｅｎ　８０（登録商標）、および０．５％　ｗ／ｖのＳｐａｎ　８５（登録商標）を含む、請求項１６～１８のいずれかの項に記載の組成物。

【請求項２０】　前記サブミクロンの水中油型エマルジョンが、Ｎ－アセチルムラミル－Ｌ－アラニル－Ｄ－イソグルタミニル－Ｌ－アラニン－２－（１’－２’－ジパルミトイル－ｓｎ－グリセロ－３－ヒドロキシホスホリルオキシ）－エチルアミンをさらに含む、請求項１９に記載の組成物。

【請求項２１】　前記選択された抗原がウイルス性抗原である、請求項１６～１９のいずれかの項に記載の組成物。

【請求項２２】　前記選択された抗原がｇｐ１２０である、請求項２１に記載の組成物。

【請求項２３】　前記選択された抗原がｐ２４ｇａｇである、請求項２１に記載の組成物。

【請求項２４】　前記選択された抗原がＣ型肝炎ウイルスＥ２である、請求項２１に記載の組成物。

【請求項２５】　前記選択された抗原が前記微粒子中に捕捉されている、請求項１６～２４のいずれかの項に記載の組成物。

【請求項２６】　前記選択された抗原が前記微粒子に吸着されている、請求項１６

～２４のいずれかの項に記載の組成物。
【請求項２７】　前記サブミクロンの水中油型エマルジョンが、前記微粒子より前に投与される、請求項１６～２６のいずれかの項に記載の組成物。
【請求項２８】　前記サブミクロンの水中油型エマルジョンが、前記微粒子の後に投与される、請求項１６～２６のいずれかの項に記載の組成物。
【請求項２９】　前記サブミクロンの水中油型エマルジョンが、前記微粒子と実質的に同時に投与される、請求項１６～２６のいずれかの項に記載の組成物。
【請求項３０】　脊椎動物の被験体の免疫のための薬剤の製造における、請求項１～１５のいずれかの項に記載の組成物の使用。
【請求項３１】　組成物を作製する方法であって、
サブミクロンの水中油型エマルジョンと、生分解性微粒子に含まれた選択された抗原とを合わせる工程
を包含する、方法。
【請求項３２】　前記選択された抗原が前記微粒子中に捕捉されている、請求項３１に記載の方法。
【請求項３３】　前記選択された抗原が前記微粒子に吸着されている、請求項３１に記載の方法。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４７】
選択される抗原は、引き続く送達のための、微粒子に捕捉されるか、または吸着される。本発明において有用な微粒子を製造するための生分解性ポリマーは、例えば、Ｂｏｅｈｒｉｎｇｅｒ　Ｉｎｇｅｌｈｅｉｍ，Ｇｅｒｍａｎｙ　ａｎｄ　Ｂｉｒｍｉｎｇｈａｍ　Ｐｏｌｙｍｅｒｓ，Ｉｎｃ．，Ｂｉｒｍｉｎｇｈａｍ，ＡＬから市販され、容易に入手できる。例えば、本明細書中で微粒子を形成するために有用なポリマーには、ポリヒドロキシ酪酸；ポリカプロラクトン；ポリオルトエーテル；ポリ無水物；およびポリ（α－ヒドロキシ酸）（例えば、ポリ（Ｌ－ラクチド）、ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド）（本明細書で両方とも「ＰＬＡ」として知られる）、ポリ（ヒドロキシブチレート））、Ｄ，Ｌ－ラクチドおよびグリコリドのコポリマー（例えば、ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コ－グリコリド）（本明細書中で「ＰＬＧ］または「ＰＬＧＡ」として表される））、あるいは、Ｄ，Ｌ－ラクチドおよびカプロラクトンのコポリマーから誘導されるものが挙げられる。本明細書中で使用する特に好ましいポリマーは、ＰＬＡおよびＰＬＧポリマーである。これらのポリマーは、種々の分子量で利用可能であり、そして所定の抗原についての適切な分子量は、当業者によって容易に測定される。このため、例えば、ＰＬＡについて、適切な分子量は、約２０００～２５０，０００のオーダーである。ＰＬＧについて、適切な分子量は、一般的に、約１０，０００～約２００，０００、好ましくは約１５，０００～約１５０，０００、そして最も好ましくは約５０，０００～約１００，０００の範囲である。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５３】
上記技術はまた、吸着された抗原を有する微粒子の生成に適用可能である。この実施態様において、微粒子は上記で説明されるように形成されるが、しかし形成後に抗原が微粒子と混合される。